

6. 本市の教育と教育環境の整備について。

- (1) パラリンピックを通じて障がいに対する理解を深める教材である、「I'M POSSIBLE」の活用状況について。

【答弁】

6. 本市の教育と教育環境の整備について。の(1)について、お答えいたします。

本市の小中学校では、これまでから全ての学年、学級において障がい理解教育を計画的に進めており、支援学級児童生徒との交流をはじめ、車イスや点字・アイマスクの体験活動、手話サークルの方々やプロの車イスバスケットボール選手との交流体験など、各学校の特色を活かした教育活動を展開しているところでございます。

国際パラリンピック委員会公認教材であります「I'm POSSIBLE」は、子どもたちにパラリンピックの魅力を伝えるとともに、パラリンピック大会を通じた共生社会や多様性のある社会の実現に向け、子どもたちが楽しく学べるように作成されたもので、スポーツ庁から各学校へ配付されたところでございます。

本市の小中学校での活用状況についてですが、現在のところ、夏季教職員研修等で教職員が教材について知識を深めた上で、2学期以降に活用を予定している学校が多数あり、これまでから取り組んでおります障がい理解教育のカリキュラムに、どのように関連づけて活用するかについて検討しているところでございます。

本市教育委員会といたしましては、障がいの有無に関わらず共に支え合いながら生きていく共生社会への理解を深め、その実現をめざす上で、2020年の東京パラリンピック大会がこれらを具現化する為の重要なヒントが詰まっている大会であると認識しておりますことから、「I'm POSSIBLE」の活用も含め、障がい理解教育の更なる充実に向け、各学校を指導してまいります。